

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成29年4月20日 (2017.4.20)

【公表番号】特表2016-514165(P2016-514165A)

【公表日】平成28年5月19日 (2016.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2016-030

【出願番号】特願2016-503188(P2016-503188)

【国際特許分類】

C 0 7 J 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/58 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 K 45/00 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/08 (2006.01)

A 6 1 P 15/00 (2006.01)

A 6 1 P 13/00 (2006.01)

【 F I 】

C 0 7 J 43/00 C S P

A 6 1 K 31/58

A 6 1 P 35/00

A 6 1 K 45/00

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 P 13/08

A 6 1 P 15/00

A 6 1 P 13/00

A 6 1 P 43/00 1 1 1

【手続補正書】

【提出日】平成29年3月14日 (2017.3.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

細胞内のアンドロゲン受容体 (A R) 活性を阻害する方法であって：
細胞内のアンドロゲン受容体 (A R) レベルを下方制御する工程；
を含む、方法。

【請求項 2】

A R レベルを下方制御するステロイド系化合物を細胞に送達する組成物を投与する工程
を含む、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記化合物が、酢酸アピラテロン、T A K - 7 0 0 又はガレテロンから選択される参照
化合物よりも強力なアンドロゲン合成阻害剤ではない、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 4】

前記化合物が、酢酸アピラテロン、T A K - 7 0 0 又はガレテロンから選択される参照
化合物よりも強力な A R アンタゴニストではない、請求項 2 に記載の方法。

【請求項 5】

前記化合物が、A Rを有する細胞の当該化合物への暴露が、A Rの下方制御、A Rが介在する転写の阻害、及び細胞増殖の阻害をもたらす、請求項2に記載の方法。

【請求項6】

前記A Rの下方制御及びA Rが介在する転写の阻害が、細胞増殖の阻害の前に起こる、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記化合物が、1 μ Mを下回るI C 5 0でC Y P 1 7を阻害する能力を有することを特徴とする、請求項2に記載の方法。

【請求項8】

前記化合物が、約1 5 μ Mを下回るG I 5 0でC W R 2 2 R v 1の増殖を阻害する能力を有することを特徴とする、請求項2に記載の方法。

【請求項9】

前記細胞が、全長及びスプライスバリエントの両方のアンドロゲン受容体を有する、請求項1に記載の方法。

【請求項10】

前記スプライスバリエントアンドロゲン受容体がりガンド結合ドメインを欠く、請求項9に記載の方法。

【請求項11】

前記スプライスバリエントアンドロゲン受容体がA R - V 7である、請求項9に記載の方法。

【請求項12】

前記細胞がA R抗アンドロゲン又はアンドロゲン遮断療法に応答しない、請求項1に記載の方法。

【請求項13】

前記細胞が酢酸アピラテロンに耐性である、請求項1に記載の方法。

【請求項14】

前記細胞がエンザルタミドに耐性である、請求項1に記載の方法。

【請求項15】

前記細胞がアンドロゲン関連性疾患細胞である、請求項1に記載の方法。